

6. 公共交通のあり方(目指す将来像)と基本方針

6-1 柳川市における公共交通のあり方(目指す将来像)と基本方針

(1)柳川市における公共交通のあり方(目指す将来像)

第2次柳川市総合計画や関連する各種計画で示されている柳川市が目指す将来像の実現に向けた本市における公共交通のあり方(目指す将来像)を以下のとおり定めます。

【柳川市が目指す将来像】

「水と人とまちが輝く 柳川」

第2次柳川市総合計画(基本構想)案では、将来像として「水と人とまちが輝く 柳川」を掲げ、以下の4つのまちの姿を示しています。

- 柳川の歴史・文化・風土に誇りと愛着を持つふるさとづくり
- 若い世代の希望を叶え、柳川の子育て、暮らしに幸せを感じるひとづくり
- 水郷柳川の風情や快適さに共感し人を惹きつけるまちづくり
- 柳川の地域資源や産物を誇れるしごとづくり

また、各分野の計画では次のような将来像が掲げられています。

- 「水と人とまちが美しい 水郷柳川」・・・「住みたい住みたい環境」、「豊かな自然と食」、「みんなが誇れる美しい景観」、「人と人のつながり」があるまち
都市構造～コンパクトな都市づくりへの展開～(都市計画)
- 誰もが住み慣れた地域で安心して心ゆたかに暮らすことができるまち(地域福祉)
- 観光客との交流を深めるにぎわいと活力のあるまち(観光振興)



【公共交通のあり方(目指す将来像)】

安全・安心で心豊かな暮らしと個性を活かした交流を支える公共交通

柳川市が目指す将来像の実現に向けて、「暮らし」と「交流」を支える次のような役割を發揮できるよう、持続可能で使いやすい公共交通を実現します。

- 誰もが愛着を持って安全に安心して心ゆたかに暮らすことができるよう生活移動の利便性を確保し、**住みたい住みたい都市を目指した定住環境の向上**を図る
 - 通勤・通学やその他の活動のための福岡市・久留米市・大牟田市など市域外への広域移動を支える
 - 日常生活に不可欠な市域内移動を支える
特に、自らの交通手段をもたない高齢者等の“交通弱者”の買い物、通院などの日常生活に不可欠な移動に加え、健康づくり、文化活動など多様な外出を支える
- 公共交通(鉄道)で本市を訪れる来訪者の利便性を高めるとともに、観光の面的広がりを実現し、**観光交流の拡大**を図る
 - 西鉄柳川駅から観光拠点・観光スポットへの公共交通でのアクセスの向上

(2)公共交通の基本方針

柳川市における地域公共交通の目指す将来像の実現に向けた基本方針を以下のとおり定めます。

また、公共交通の財源や車両・人材などの資源をより効果的に活用するために、重点ターゲットを明確にして、地域公共交通の取り組みを進めていきます。

本市における地域公共交通のあり方(目指す将来像)

安全・安心で心豊かな暮らしと個性を活かした交流を支える公共交通

公共交通の問題点・課題

まちづくりとの整合の観点からの課題

- ・コンパクトな都市づくりに向けた西鉄柳川駅周辺へのアクセスの確保
- ・生涯学習や健康づくりなどの推進に向けた活動拠点へのアクセスの確保
- ・定住・移住促進に向けた西鉄柳川駅を拠点とした市内外への円滑なアクセスの確保
- ・観光振興に向けた円滑な来街アクセスの確保や市内周遊環境の形成

市民等の移動ニーズへの対応の観点からの課題

- ・市外に通勤・通学する市民の円滑な移動の確保
- ・高齢者の市内生活利便施設へのアクセスの確保
- ・鉄道で市外に外出する市民の円滑なネットワークの確保
- ・柳川駅から沖端地区等観光資源への円滑なアクセスの確保

持続可能性の確保の観点からの課題

- ・路線バスの運行サービスの見直しによる持続可能性の向上
- ・コミュニティバスの運行効率化と財政面の強化
- ・利用が著しく低迷する福祉バスの運行サービスの見直し
- ・市民の公共交通に対する認知・関心の喚起と利用促進

基本方針Ⅰ：鉄道を軸とした市内外の円滑な移動を支える公共交通ネットワーク

- 通勤や通学、買い物等日常生活における市民の市外への移動や、市外からの通勤・通学に対応する、西鉄天神大牟田線を軸とした公共交通ネットワークを構築します。

基本方針Ⅱ：買物や通院、健康づくり、文化活動などを支える公共交通ネットワーク

- 主に高齢者の買い物や通院、健康づくり、文化活動等日常生活における移動を支える使いやすい公共交通ネットワークを構築します。

基本方針Ⅲ：観光客の円滑な移動を支える公共交通ネットワーク

- タクシーや川下り送迎バスなどの民間サービスを含めた形で観光客の移動を確保するものとし、情報提供や案内誘導サインなどソフト面から円滑な移動を支えます。

基本方針Ⅳ：持続可能な公共交通

- 行政や交通事業者だけではなく、市民や地域等も含めて、地域全体で連携・協働しながら、地域の将来像実現に必要な不可欠な社会基盤（インフラ）である公共交通の持続可能性を向上させます。

重点ターゲット

柳川市民および柳川市への来訪者（観光客、通勤・通学者など）を対象とし、特に「公共交通を必要とする人」として、以下のとおり重点ターゲットを設定します。

- ①高齢者：運転免許を持っていない、あるいは自家用車を持っていない高齢者などで、自力（付添による利用を含む）で公共交通を利用できる人（介助等が必要な人は福祉部局の施策で対応する）
- ②学生
- ③運転免許も自家用車も持っているが、実態的に自家用車での移動が難しい人（久留米市、大牟田市、福岡市への通勤者、来訪する観光客など）

（3）公共交通ネットワークの将来イメージ

①基本方針Ⅰのイメージ

【通勤・通学ネットワークの基本方針】

- 市外へ通勤・通学する市民の移動や市外から通勤・通学してくる来訪者の移動に対して、西鉄天神大牟田線により、福岡・天神や久留米市、大牟田市などの鉄道沿線地域とのスムーズな公共交通サービスを確認
- 市外への通勤・通学者の柳川駅へのアクセスや市外からの通勤・通学者の柳川駅から大川市やみやま市などの他都市へのアクセスを路線バスにより確保
- 西鉄天神大牟田線と路線バスの交通結節点である柳川駅を市内の最重要交通拠点と位置づけ、西鉄電車と路線バスの円滑な乗り継ぎを確保

【公共交通機関・路線の位置づけ】

	位置づけ	交通機関	対象路線	交通結節点
広域交通	天神や久留米市、大牟田市等との南北方向の交通を担う	鉄道	西鉄天神大牟田線	柳川駅
	大川市やみやま市等との東西方向の交通を担う	路線バス	佐賀柳川線 沖新線 瀬高柳川線	
域内交通	市内各地から柳川駅へのアクセスを担う	路線バス	佐賀柳川線 沖新線 市内循環線 瀬高柳川線	
	路線バスで対応しきれないニーズに対応する	タクシー	—	

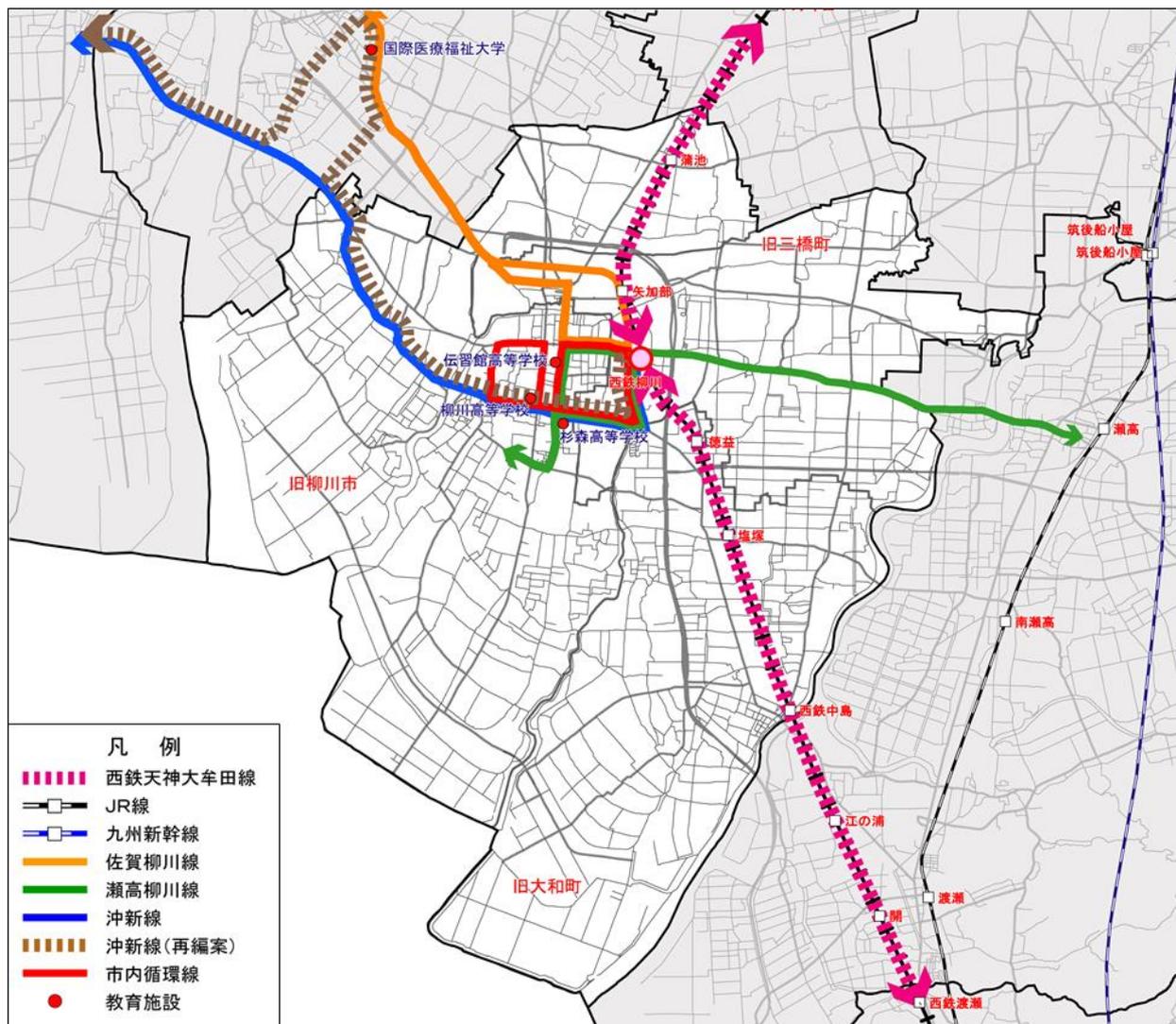


図 通勤・通学ネットワークイメージ

②基本方針IIのイメージ

【買物・通院・その他外出目的ネットワークの基本方針】

- 各地域のコミュニティバスは、地域内の各集落と市中心部等に立地する主な外出先である商業施設や病院を結び、主に高齢者の日常的な外出を支える。
- 無料福祉循環バスとの統合により、より利便性の高いネットワークを形成する。
- 利用されていないバス停の見直しにより効率的なネットワークを形成する。

【公共交通機関・路線の位置づけ】

	位置づけ	交通機関
域内交通	各地域において集落から主な外出先までの移動を担う	コミュニティバス
	コミュニティバスで対応しきれないニーズに対応する	タクシー

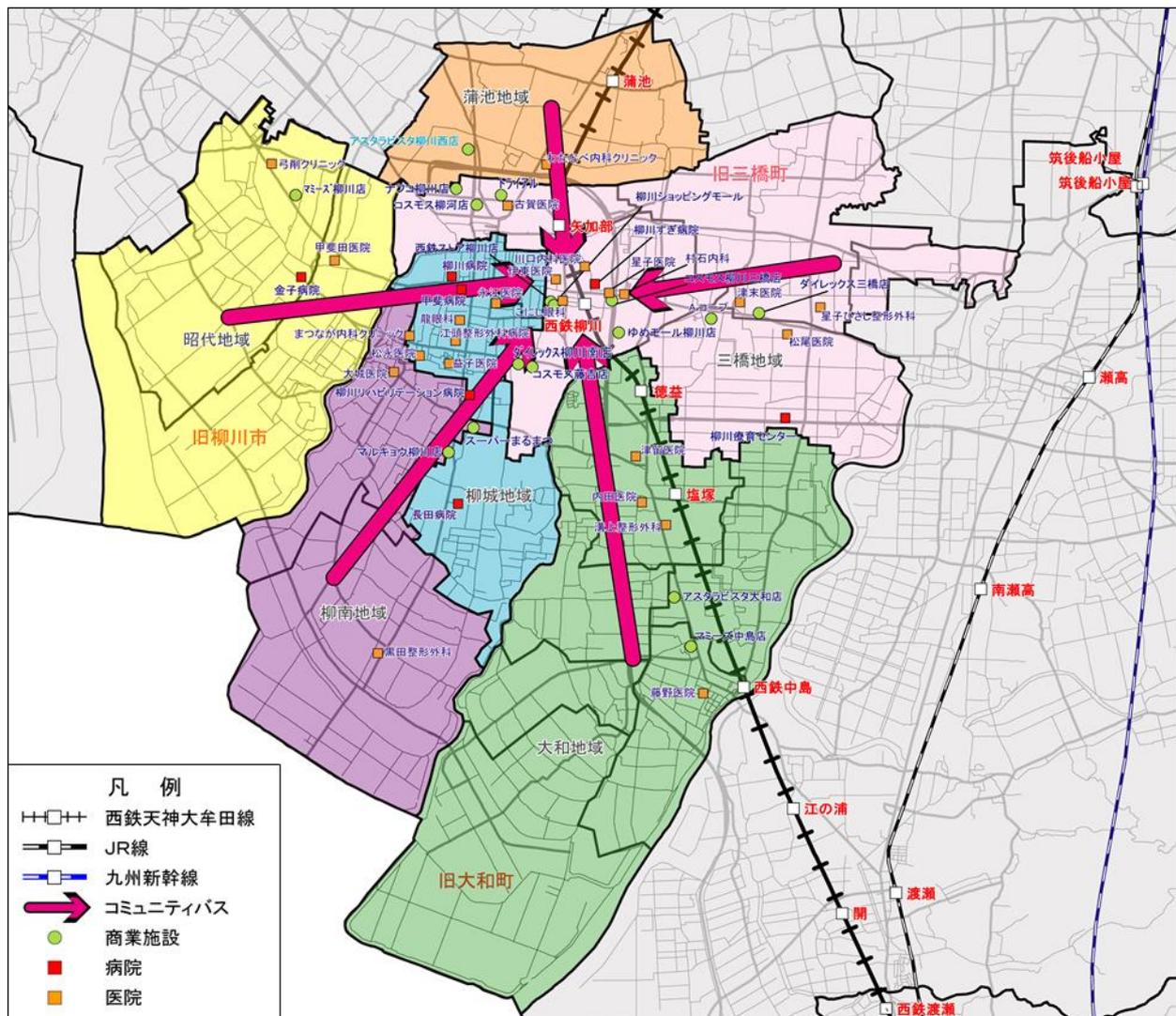


図 買物・通院・その他外出目的ネットワーク

③基本方針Ⅲのイメージ

【観光ネットワークの基本方針】

- 福岡市など市外の鉄道沿線地域からの観光客に対して、西鉄天神大牟田線により、利便性の高い公共交通サービスを確認
- 路線バス、タクシーなどにより、柳川駅と観光地（沖端地区）との移動や沖端地区内での周遊を確認
- 季節行事やイベントなどのニーズに柔軟に応じる臨時の観光交通サービスを確認
- 西鉄天神大牟田線と路線バス、タクシーなどの交通結節点である柳川駅を市内の最重要交通拠点と位置づけ、西鉄電車と路線バス、タクシーの円滑な乗り継ぎを確認
- 駅やバス停、観光地等での公共交通に関する情報提供機能を強化

【公共交通機関・路線の位置づけ】

	位置づけ	交通機関	対象路線	交通結節点
広域交通	天神等との南北方向の交通を担う	鉄道	西鉄天神大牟田線	柳川駅
域内交通	柳川駅と観光地との移動や観光地内での周遊を担う	路線バス	沖新線 市内循環線	
	路線バスで対応しきれないニーズに対応する	タクシー	—	
	季節行事やイベントなどの一時的に高まるニーズに対応する	観光交通	—	

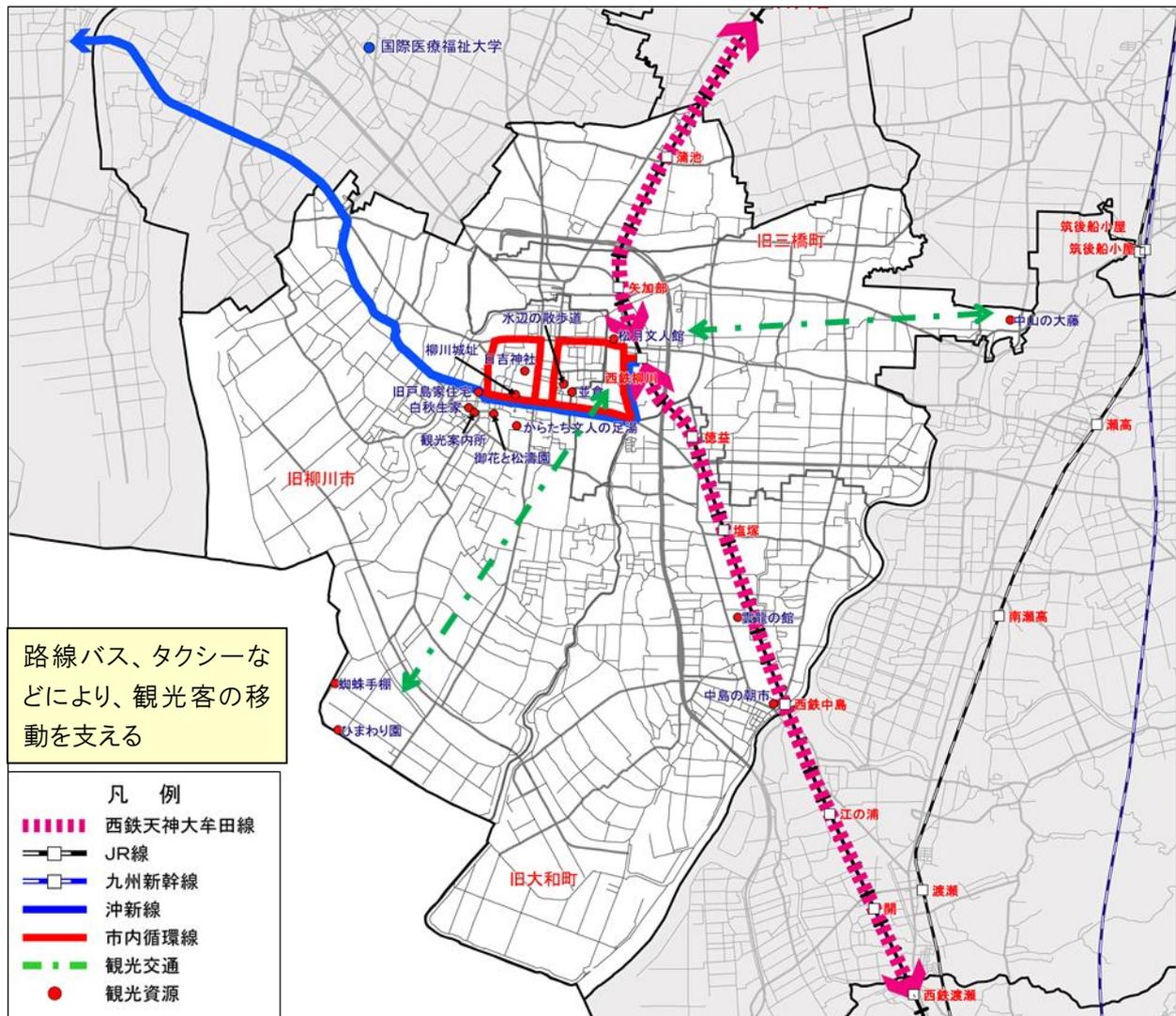


図 観光ネットワークイメージ

6-3 計画の目標及び数値指標

これまでに示した地域公共交通の問題点・課題、地域公共交通のあり方（目指す将来像）と基本方針、公共交通ネットワークの将来イメージなどを踏まえて、柳川市地域公共交通網形成計画の目標及び目標の達成状況を評価する数値指標を以下のように設定します。

I. 鉄道を軸とした市内外の円滑な移動を支える公共交通ネットワーク

目標1. 公共交通での市内外の移動の利便性の向上

数値指標①：西鉄天神大牟田線の1日平均利用者数

数値指標②：路線バスの年間利用者数

II. 買い物や通院、健康づくり、文化活動などを支える公共交通ネットワーク

目標2. ニーズに対応した利用しやすい市内公共交通サービスの実現

数値指標：コミュニティバスの年間利用者数

目標3. 高齢者等が公共交通を利用しやすい環境の整備

数値指標①：高齢者の日常生活における移動手段の確保に対する評価

数値指標②：高齢者で週1日以上外出している人の割合

数値指標③：コミュニティバスの「水の郷」バス停の年間利用者数

III. 観光客の円滑な移動を支える公共交通ネットワーク

目標4. 観光を支える公共交通の確保・充実

数値指標：西鉄電車利用の観光入込客数の観光入込客総数に対する割合

IV. 持続可能な公共交通

目標5. 公共交通の持続可能性の確保

数値指標①：路線バスの維持・確保のための柳川市の財政負担額

数値指標②：コミュニティバスの維持・確保のための柳川市の財政負担額

目標6. 市民の公共交通の周知・利用意識の醸成

数値指標①：市内の公共交通に対する市民の満足度

数値指標②：調査前1ヶ月間に公共交通を利用した人の割合

数値指標③：「乗り方教室」に参加した小学生数

1. 鉄道を軸とした市内外の円滑な移動を支える公共交通ネットワーク

目標 1. 公共交通での市内外の移動の利便性の向上

鉄道（西鉄天神大牟田線）の機能強化や西鉄柳川駅で鉄道と結節し一体となって機能する路線バスの維持・確保等を通じて、公共交通での市内外の移動の利便性の向上を図ります。

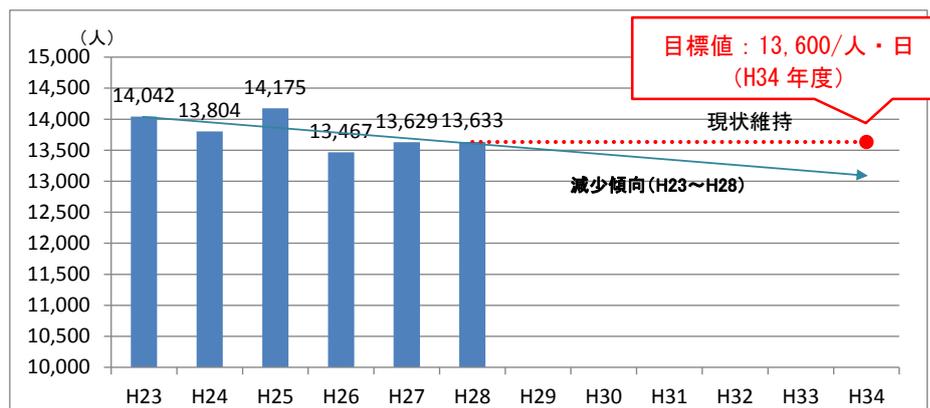
- ◆目標 1 の達成状況を測る指標①として、市内外の移動を中心となって担う西鉄天神大牟田線の 1 日平均利用者数を設定します。

平成 23 年以降、増減はあるものの減少傾向にあることから、目標値は、公共交通に関する情報提供や利用促進、鉄道と路線バスの円滑な乗り継ぎの確保及び観光利用の拡大等の取り組みにより、減少傾向に歯止めをかけることを目指し、現状維持として設定します。

数値指標 ①

数値指標	単位	現況値	目標値 (H34 年度)
西鉄天神大牟田線の 1 日平均利用者数※	人/日	13,633 (平成 28 年度)	13,600

※西鉄天神大牟田線の 1 日平均利用者数は、市内 6 駅の 1 日平均利用者数の合計としています。



▲西鉄天神大牟田線の 1 日平均利用者数の目標値設定根拠

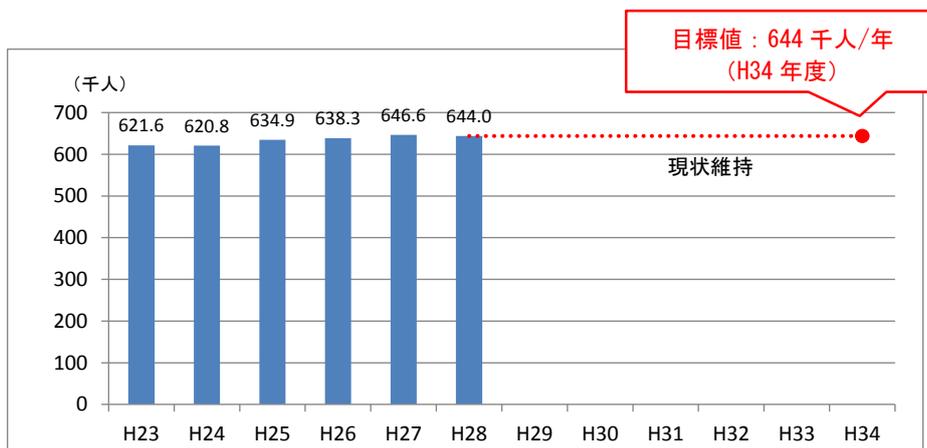
- ◆目標 1 の達成状況を測る指標②として、鉄道との組み合わせ、あるいは地域間幹線バスとして市内外の移動を担う路線バスの年間利用者数を設定します。

目標値は、情報提供等による利用促進や観光利用の拡大等の取り組みにより、今後人口減少が見込まれる中で現状を維持することを目指して設定します。

数値指標 ②

数値指標	単位	現況値	目標値 (H34 年度)
路線バスの年間利用者数※	千人/年	644.0 (平成 28 年度)	644.0

※路線バスの佐賀柳川線、瀬高柳川線及び沖新線・市内循環線の利用者数の合計としています。



▲路線バスの年間利用者数の目標値設定根拠

II. 買物や通院、健康づくり、文化活動などを支える公共交通ネットワーク

目標 2. ニーズに対応した利用しやすい市内公共交通サービスの実現

コミュニティバスのネットワークの再編等により、高齢者等の日常生活の移動ニーズに対応した利用しやすい公共交通サービスの実現を図ります。

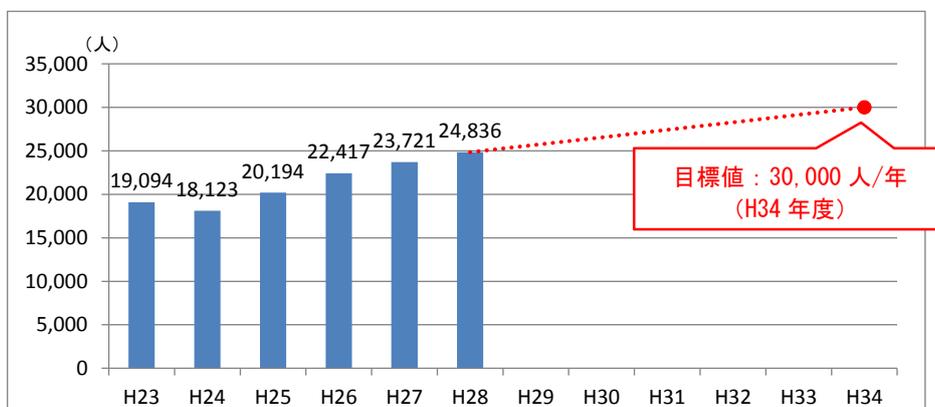
- ◆目標 2 の達成状況を測る指標として、高齢者等の日常生活の移動手段を中心的に担うコミュニティバスの年間利用者数を設定します。

コミュニティバスの利用者数は増加傾向にありますが、増加率は減少してきています。目標値はコミュニティバスの再編による利便性の向上や情報提供等による利用促進等の取り組みにより、増加率は減少するものの今後とも増加傾向を維持することを目指して設定します。

数値指標			
数値指標	単位	現況値	目標値 (H34 年度)
コミュニティバスの年間利用者数※	人/年	26,222 (平成 28 年度)	30,000

※平成 30 年度以降、コミュニティバスと無料福祉循環バスとは統合する計画であるため、目標値は無料福祉循環バスとの統合後の利用者数としています。

※増加率減少の傾向を踏まえ、平成 34 年度までの年平均増加率を 3.0%と見込み目標値を設定しています。



注) 平成 23~28 年度はコミュニティバスの利用者数。

▲コミュニティバスの年間利用者数の目標値設定根拠

目標 3. 高齢者等が公共交通を利用しやすい環境の整備

バスを待つ負担感や不便感の軽減や高齢者が利用しやすいバス車両の導入を図るとともに、公共交通での外出の運賃負担の軽減を図ることを通じて、高齢者等が公共交通を利用しやすい環境の整備を図ります。

また、高齢者等の外出は心身の健康維持・増進などの効果があります。そのため、高齢者等の利用頻度の高い施設である水の郷への公共交通でのアクセスの強化を図ります

- ◆目標 3 の達成状況を測る指標①として、高齢者の日常生活における移動手段の確保についての市民の評価を設定します。

目標値は、コミュニティバスの再編による利便性の向上のほか高齢者等が公共交通を利用しやすい環境の整備等の取り組みを進めることにより、高齢者の日常生活における移動手段は確保されていると評価する人の割合を高めることを目指して設定します。

数値指標 ①			
数値指標	単位	現況値	目標値 (H34 年度)
高齢者の日常生活における移動手段の確保に対する評価*	%	12.0 (平成 28 年度)	17.0

※市民アンケート調査において、「高齢者の日常生活における移動手段」について、「確保されている」及び「ある程度確保されている」と評価した人の割合の合計です。

高齢者の日常生活における移動手段の確保に対する評価	
確保されていると思う	1.5%
ある程度確保されたと思う	10.5%
よくわからない	53.5%
まだ確保されていない部分があると思う	21.4%
無回答	13.1%

N=886

「よくわからない」の回答者のうち 1 割を「確保されている」又は「ある程度確保されている」に転換

▲高齢者の日常生活における移動手段の確保に対する評価の目標値設定根拠

- ◆目標 3 の達成状況を測る指標②として、高齢者で週 1 日以上外出している人の割合を設定します。高齢者の外出は心身の健康維持・増進などの効果があり、高齢者等が利用しやすい公共交通を確保することにより、外出が促進されると考えられます。

目標値は、高齢者等が公共交通を利用しやすい環境の整備等の取り組みを進めることにより、高齢者で少なくとも週に 1 日以上外出する人の割合を現状より高めることを目指して設定します。

数値指標 ②			
数値指標	単位	現況値	目標値 (H34 年度)
高齢者で週 1 日以上外出している人の割合*	%	83.5 (平成 28 年度)	85.9

※市民アンケート調査において、65 歳以上の高齢者のうち、最も頻度の高い外出目的である買い物での外出を週 1 日以上している人の割合です。

65 歳以上の買い物外出者の外出頻度	
ほぼ毎日（週 5 日以上）	18.3%
週 3～4 日	32.6%
週 1～2 日	32.6%
月に数日	12.0%
その他	1.2%
無回答	3.2%

83.5%
「月に数日」の回答者のうち 2 割を「ほぼ毎日」「週 3～4 日」「週 1～2 日」に転換

N=290

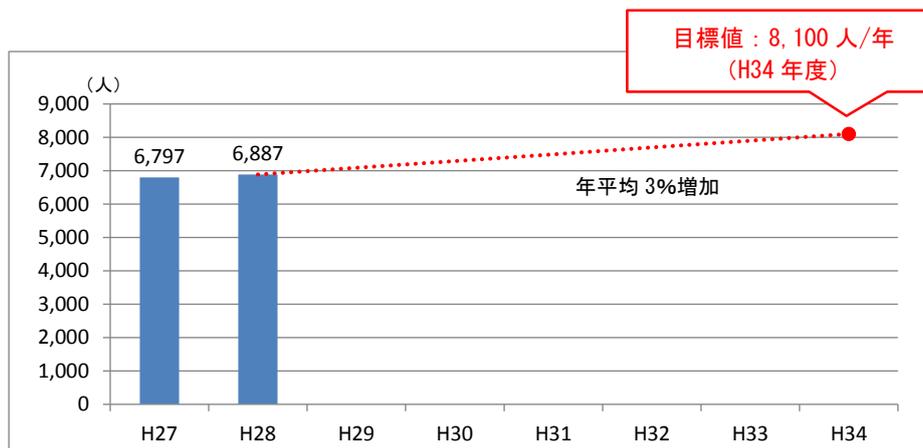
▲高齢者で週 1 日以上外出している人の割合の目標値設定根拠

- ◆目標 3 の達成状況を測る指標③として、コミュニティバスの「水の郷」バス停の年間利用者数を設定します。柳川総合保健福祉センター水の郷には柳川温泉「南風」があり、高齢者等の健康づくりと憩いの場となっています。

水の郷は高齢者等の利用頻度の高い施設で、コミュニティバスの「水の郷」バス停の年間利用者数は買い物や通院以外でのコミュニティバスの利用状況を表すものと考えられます。

目標値は、コミュニティバスでの行きやすさの向上や情報提供等による利用促進等の取り組みにより、コミュニティバス全体と同じ増加傾向を維持することを目指して設定します。

数値指標 ③			
数値指標	単位	現況値	目標値 (H34 年度)
コミュニティバスの「水の郷」バス停の年間利用者数	人/年	6,887 (平成 28 年度)	8,100



▲コミュニティバスの「水の郷」バス停の年間利用者数の目標値設定根拠

III. 観光客の円滑な移動を確保

目標 4. 観光を支える公共交通の確保・充実

公共交通と観光の一体的情報提供、観光に対応した路線バスの充実等により、観光を支える公共交通の確保・充実を図ります。

◆目標 4 の達成状況を測る指標として、公共交通での市内観光入込客の大半を占める西鉄電車利用の観光入込客数の観光入込客総数に対する割合を設定します。

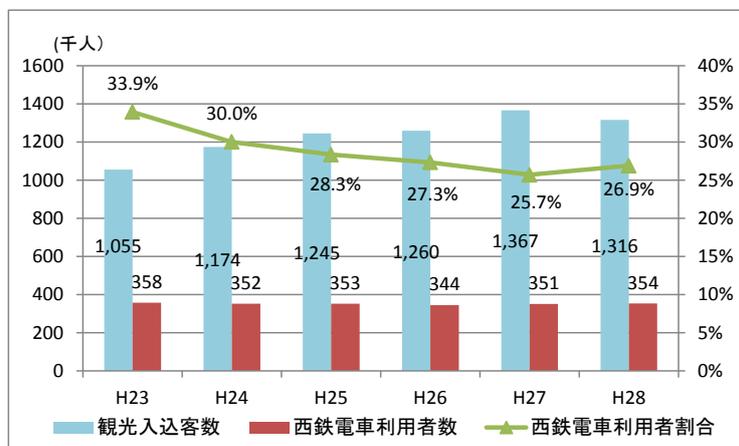
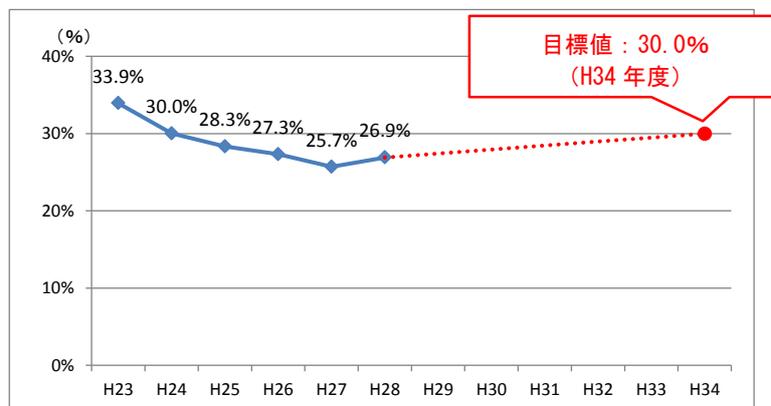
西鉄電車利用の観光入込客の柳川駅から市内観光地への移動は主に公共交通によることになることから既存公共交通の観光移動への活用、利用促進の効果は西鉄電車利用の観光入込客の割合に反映されるものと考えられます。

平成 23 年以降、西鉄電車利用の観光入込客数はほぼ横ばいで推移していますが、その割合は低下傾向にあります。このような状況を踏まえて、目標値は西鉄電車利用の観光入込客の割合を平成 24 年の値に相当する割合まで増加することを目指して設定します。

数値指標

数値指標	単位	現況値	目標値 (H34 年度)
西鉄電車利用の観光入込客数の観光入込客総数に対する割合※	%	26.9 (平成 28 年度)	30.0

※柳川市観光動態調査において、観光入込客総数に対する西鉄電車利用者数の割合です。



▲西鉄電車利用の観光入込客数の観光入込客総数に対する割合の目標値設定根拠

IV. 持続可能な公共交通

目標 5. 公共交通の持続可能性の確保

公共交通の持続可能性の確保に向けて、利用促進に加えて、運行効率性の低い路線の見直しやコミュニティバスの財政面の改善等を通じた公共交通の持続可能性の向上を図ります。

- ◆目標 5 の達成状況を測る指標①として、財政負担を行っている路線バス（沖新線及び瀬高柳川線）の年間利用者数を設定します。

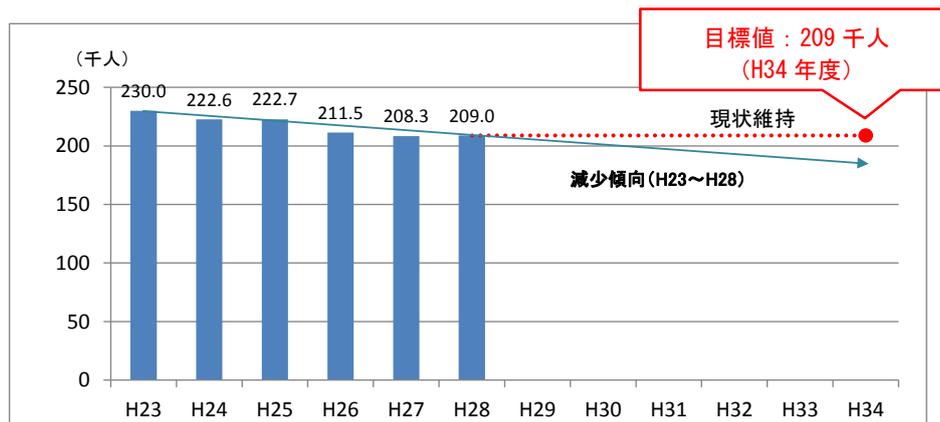
路線バスの利用者数の増減は財政負担額に影響することから、公共交通の持続可能性の確保にとって重要な指標となります。

目標値は、平成 23 年度以降減少傾向にあることから、情報提供等による利用促進や観光利用の拡大等の取り組みの実施により、現状を維持することを目指して設定します。

数値指標 ①

数値指標	単位	現況値	目標値 (H34 年度)
財政負担を行っている路線バスの年間利用者数※	千人	209.0 (平成 28 年度)	209.0

※市が財政負担をしている路線バスの沖新線及び瀬高柳川線の年間利用者数の合計です。



▲財政負担を行っている路線バスの年間利用者数の目標値設定根拠

- ◆目標 5 の達成状況を測る指標②として、コミュニティバスの年間利用者数を設定します。

(目標 2 の指標の再掲)

コミュニティバスの運行には財政負担を行っており、その利用者数の増減は財政負担額に影響することから、公共交通の持続可能性の確保にとって重要な指標となります。

目標値はコミュニティバスの再編による利便性の向上や情報提供等による利用促進等の取り組みにより、増加率は減少するものの今後とも増加傾向を維持することを目指して設定します。

数値指標 ②

数値指標	単位	現況値	目標値 (H34 年度)
コミュニティバスの年間利用者数※	人/年	26,222 (平成 28 年度)	30,000

※平成 30 年度以降、コミュニティバスと無料福祉循環バスとは統合する計画であるため、目標値は無料福祉循環バスとの統合後の利用者数としています。

目標 6. 市民の公共交通の周知・利用意識の醸成

公共交通に関する情報や運営状況に関する情報の提供、モビリティ・マネジメントの実施などを通じて、市民の“利用して地域公共交通を支える”という意識の醸成を図り、行政・交通事業者・市民が一体となって地域公共交通の確保に取り組む体制づくりを進めます。

- ◆目標 6 の達成状況を測る指標①として、市内の公共交通に対する市民の満足度を設定します。市内の公共交通やその運営状況を正しく理解してもらうことは、公共交通の利便性などの改善の取組みとあいまって公共交通に対する満足度を高めるものと考えられます。

目標値は、公共交通に関する情報や運営状況に関する情報の提供、モビリティ・マネジメントの実施などを通じて、市内の公共交通に対する市民の満足度を現状より高めることを目指して設定します。

数値指標 ①			
数値指標	単位	現況値	目標値 (H34 年度)
市内の公共交通に対する市民の満足度*	%	12.7 (平成 28 年度)	21.0

※市民アンケート調査において、「市内の公共交通」について、「とても満足している」及び「ある程度満足している」と評価した人の割合の合計です。

市内の公共交通に対する市民の満足度	
とても満足している	0.8%
ある程度満足している	11.9%
どちらでもない	40.7%
あまり満足していない	16.2%
満足していない	11.6%
無回答	18.8%

N=886

「どちらでもない」の回答者のうち2割を「とても満足」又は「ある程度満足」に転換

▲市内の公共交通に対する市民の満足度の目標値設定根拠

- ◆目標6の達成状況を測る指標②として、調査前1ヶ月間に公共交通を利用した人の割合を設定します。公共交通を利用しない理由のうち「そもそも公共交通の利用を考えたことがない」が最も多くを占めていることから、調査前1ヶ月間に公共交通を利用した人の割合は利用意識の醸成を反映するものと考えられます。

目標値は、情報の提供やモビリティ・マネジメントの実施などを通じて、公共交通を利用した人の割合が相対的に低い高齢者の利用促進を図ることにより、利用したことのある人の割合を高めることとして設定します。

数値指標 ②			
数値指標	単位	現況値	目標値 (H34年度)
調査前1ヶ月間に公共交通を利用した人の割合※	%	31.0 (平成28年度)	35.0

※市民アンケート調査において、調査前1か月間に公共交通を「利用した」と回答した人の割合です。

※設定した目標値は、65歳以上の高齢者で公共交通を利用した人の割合を10%高めたときの全体の割合に相当します。

- ◆目標6の達成状況を測る指標③として、モビリティ・マネジメントとして行う公共交通の「乗り方教室」に参加した小学生数を設定します。

小学校におけるモビリティ・マネジメントは児童自身に公共交通を知り、親しみを持ってもらうことにより将来の利用者を育てるとともに、家庭に帰って自らの体験を話すことにより大人にもその効果を及ぼすことが期待できます。

目標値は、毎年度、路線バス沿線の7小学校において、1校平均40人を対象に「乗り方教室」を行うこととして設定します。

数値指標 ③			
数値指標	単位	現況値	目標値 (H34年度)
「乗り方教室」に参加した小学生数※	人	122 (平成29年度)	280

※市内の小学校において実施するバス・電車等の公共交通の「乗り方教室」に参加した小学生数の年度ごとの合計です。

※現況値は、平成29年度に3校で行った「乗り方教室」への参加小学生数です。

7. 目標達成に向けた施策展開

7-1 取り組みの方向性

各計画の目標達成に向けた取り組みの方向性を以下のとおり定めます。

目標1)公共交通での市内外の移動の利便性の向上

①鉄道（西鉄天神大牟田線）の機能の強化

②路線バスの維持・確保

③鉄道駅へのアクセスの環境の改善

目標2) ニーズに対応した利用しやすい市内公共交通サービスの実現

④利用しやすいコミュニティバスのネットワークへの再編

目標3)高齢者等が公共交通を利用しやすい環境の整備

⑤公共交通を利用しやすい環境の整備

⑥公共交通を利用しやすい運賃割引等の維持・導入

目標4) 観光を支える公共交通の確保・充実

⑦公共交通情報と観光情報の一体的提供

⑧既存公共交通の観光移動への活用、利用促進

目標5) 公共交通の持続可能性の確保

⑨運行効率性向上のための路線の見直し

⑩コミュニティバスの財政面の改善

目標6) 市民の公共交通の周知・利用意識の醸成

⑪公共交通のわかりやすい情報提供の充実

⑫地域公共交通に対する理解を通じた利用の促進

⑬地域公共交通の運営への地域住民等の参画

7-2 目標達成に向けた施策展開

目標の達成に向けて、以下のような施策を展開していきます。

【目標1】 公共交通での市内外の移動の利便性の向上						
【施策①】 鉄道（西鉄天神大牟田線）の機能の強化						
①目的						
<ul style="list-style-type: none"> ● 福岡市、久留米市、大牟田市等との公共交通の主軸である西鉄天神大牟田線の機能強化を図り、市内外の通勤・通学等や市外からの観光入込の利便性の向上を図ります。 						
②取り組み方針及び取り組み内容						
<ul style="list-style-type: none"> ● 福岡方面への特急の増便の要望 <ul style="list-style-type: none"> ➢ 福岡方面への通勤・通学等の利便性を高めるため、朝の通勤・通学時間帯の福岡方面への特急の増便を交通事業者働きかけます。 ● 単線区間の複線化の促進 <ul style="list-style-type: none"> ➢ 西鉄天神大牟田線の久留米駅～柳川駅間には単線区間があり、複線化により、より優れた速達性や増便など鉄道利用の利便性を高めるため、「西鉄天神大牟田線久留米-大牟田間複線化促進期成会」の活動等を通じて、福岡県等関係機関や鉄道事業者に対して複線化の要望を継続して行います。 						
③実施主体とスケジュール						
取り組み内容	実施主体	スケジュール				
		H30	H31	H32	H33	H34
福岡方面への特急の増便の要望	柳川市	継続実施				
単線区間の複線化の促進	柳川市	継続実施				

【目標1】 公共交通での市内外の移動の利便性の向上

【施策②】 路線バスの維持・確保

①目的

- 西鉄天神大牟田線と組み合わせた利用、あるいは地域間幹線バスとして市内外の移動を担うとともに、広域拠点である柳川駅周辺へアクセスする市内交通幹線として重要な役割を果たす路線バスの維持・確保を図ります。

②取り組み方針及び取り組み内容

- 鉄道と乗継しやすいダイヤの設定
 - 鉄道のダイヤ改正に当たっては、鉄道・バスの事業間での連携を密にし、柳川駅で西鉄天神大牟田線（特急）と乗り継ぎしやすい路線バスのダイヤ変更を円滑に行います。
- ニーズの多い施設への乗り入れ
 - 路線バスについて、利用者の利便性の向上と大川市の国際医療福祉大学や市民文化会館（仮称）など、新規需要の獲得による持続可能性の確保のため、ニーズの多い施設にアクセスする運行ルートへの見直しを検討し、実証運行とその効果を検証したうえでルート変更の可否を決定します。
- 路線バス車内における情報提供による利用促進
 - バス車内における鉄道との乗継ダイヤのチラシ配布や利用促進ポスターの掲示などわかりやすい情報提供を通じて利用促進を図ります。（施策⑩関連）

③実施主体とスケジュール

取り組み内容	実施主体	スケジュール				
		H30	H31	H32	H33	H34
鉄道と乗継しやすいダイヤの設定	交通事業者	ダイヤ改正に際して随時実施				
ニーズの多い施設への乗り入れ	柳川市 交通事業者	検討	実証 運行	評価	(実施の場合) 見直しルートで運行	
路線バス車内における情報提供による利用促進	柳川市 交通事業者	実施				

【目標1】 公共交通での市内外の移動の利便性の向上

【施策③】 鉄道駅へのアクセス環境の改善

①目的

- 柳川駅など西鉄天神大牟田線の駅へのアクセス環境の改善を通じて、鉄道利用による市域外への移動の利便性の向上を図ります。

②取り組み方針及び取り組み内容

- 西鉄柳川駅におけるタクシー乗り場への移動の快適性の向上
 - 駅舎からタクシー乗り場への上屋の整備を検討し、雨天時のタクシー乗り場への移動の快適性の向上を図ります。
- 駅周辺の駐車場・駐輪場の整備
 - 西鉄天神大牟田線の柳川駅等の周辺における駐車場・駐輪場の整備を促進し、鉄道駅へのアクセスの利便性の向上を図ります。

③実施主体とスケジュール

取り組み内容	実施主体	スケジュール				
		H30	H31	H32	H33	H34
西鉄柳川駅におけるタクシー乗り場への移動の快適性の向上	柳川市 交通事業者		検討・調整	整備		
駅周辺の駐車場・駐輪場の整備	柳川市 交通事業者	検討				

【目標2】 ニーズに対応した利用しやすい市内公共交通サービスの実現

【施策④】 利用しやすいコミュニティバスのネットワークへの再編

①目的

- 高齢者の買い物や通院その他の日常生活の移動を支えるコミュニティバスのネットワークの見直しにより、より利用しやすい公共交通ネットワークを構築します。

②取り組み方針及び取り組み内容

- コミュニティバスネットワークの再編
 - 無料福祉循環バスとの統合や運行ルートの見直し等の運行効率化により、運行曜日の拡大や増便など、コミュニティバスによる日常生活の移動の利便性の向上を図ります。
 - コミュニティバスの運行ルートは、各地域での利用状況を踏まえるとともに、ニーズの多い施設にアクセスできるよう配慮して設定します。

③実施主体とスケジュール

取り組み内容	実施主体	スケジュール					
		H30	H31	H32	H33	H34	
コミュニティバスネットワークの再編	柳川市 交通事業者	試 行	再編運行				
			評価・検証を継続的に実施				

【目標3】 高齢者等が公共交通を利用しやすい環境の整備

【施策⑤】 公共交通を利用しやすい環境の整備

①目的

- バスを待つ環境の改善やバスの運行情報の提供等により、バスを待つ負担感や不便感の軽減を図るとともに、高齢者も利用しやすいバス車両の導入を進め、バスの利用環境を改善します。

②取り組み方針及び取り組み内容

- 路線バス・コミュニティバスのバス停のベンチ等の整備
 - 路線バスやコミュニティバスの利用者の多いバス停について、ベンチの設置等によりバスを待つ環境の改善を図ります。
バス停周辺の状況から、バス停にベンチの設置が困難な場合は、近隣の店舗等の協力を得て軒先でバスを待つことができる環境を確保することを含めて検討します。
- ICTを活用した情報提供によるバスを使いやすい環境の整備
 - 簡易バスロケーションシステムの導入や公共交通データのオープン化によるウェブによるバスの運行案内の提供など、ICTを活用したバスの運行情報提供によりバス利用の不便感を軽減します。
- 低床バス車両の導入促進
 - 路線バスに高齢者が利用しやすい低床バス車両の導入を促進します。導入する車両はノンステップバス又はワンステップバスとしますが、できるだけノンステップバスとするよう努めます。

③実施主体とスケジュール

取り組み内容	実施主体	スケジュール				
		H30	H31	H32	H33	H34
路線バス・コミュニティバスのバス停のベンチ等の整備	柳川市 交通事業者 地域（住民）	検討・調整		優先度の高い箇所の整備		
ICTを活用した情報提供によるバスを使いやすい環境の整備	柳川市 交通事業者	検討	準備	実施		
低床バス車両の導入	交通事業者	順次導入				

【目標3】 高齢者等が公共交通を利用しやすい環境の整備

【施策⑥】 公共交通を利用しやすい運賃割引等の維持・導入

①目的

- 運賃割引等により、高齢者や家族での公共交通による外出の運賃負担の軽減を図り、経済面から公共交通の利用環境の改善を図ります。

②取り組み方針及び取り組み内容

- 高齢者を対象とする公共交通運賃の割引制度の継続
 - 65歳以上の高齢者を対象とした西鉄電車・バスが利用できる割引定期券である西鉄「グランドパス65」を継続するとともに、その周知・PRを図っていきます。
- 運転免許を自主返納した高齢者に対する支援の充実
 - 運転免許を自主返納した高齢者に対する交通事業者による運賃割引制度（西鉄グランドパス65の運転免許証返納割引、堀川バスの65歳以上運転免許証返納者へのバス運賃割引）や柳川市によるタクシーチケット助成の支援を継続するとともに、新たにタクシーについても高齢者運転免許証自主返納割引を実施します。
 - 交通事業者や市による運転免許証自主返納高齢者の公共交通利用支援策の周知・PRを図り、公共交通の利用促進を図ります。
- 公共交通利用の運賃負担を軽減する運賃割引制度の導入
 - 家族やグループでの外出の運賃負担を軽減する家族割引やグループ割引（4枚切符等）などの運賃割引の導入や企画割引切符の充実などを検討し、運賃負担の軽減を図ります。

③実施主体とスケジュール

取り組み内容	実施主体	スケジュール				
		H30	H31	H32	H33	H34
高齢者を対象とする公共交通運賃の割引制度の継続	柳川市 交通事業者	継続実施				
運転免許を自主返納した高齢者に対する支援の充実	柳川市 交通事業者	継続実施・充実				
公共交通利用の運賃負担を軽減する運賃割引制度導入	交通事業者	検討		試行		

【目標4】 観光を支える公共交通の確保・充実

【施策⑦】 公共交通情報と観光情報の一体的提供

①目的

- 観光情報の提供とあわせて公共交通の情報を提供することにより、公共交通を利用した観光を促進します。

②取り組み方針及び取り組み内容

- 観光情報を掲載した公共交通マップの作成・提供
 - 柳川市の観光施設が集積する沖端地区等への西鉄柳川駅からのアクセスや地区内周遊の公共交通情報（バス路線、時刻表等）を観光情報と一体的に掲載した観光マップ等を作成し、市及び観光協会のホームページで提供するとともに、観光案内所等で配布します。
 - 観光パンフレット等の観光情報の提供にあたっては、路線バスで行ける観光施設については公共交通によるアクセス情報をあわせて掲載するように努めます。また、季節の祭りやイベントについても、柳川駅等から祭りの会場への公共交通での行き方を具体的に案内し、公共交通での来場を促します。
- 西鉄柳川駅構内からの公共交通へのスムーズな誘導及び観光スポットにおける公共交通の案内・誘導サインの充実
 - 駅構内からの公共交通のスムーズな誘導及び沖端地区等の観光施設において、近くのバス停への案内・誘導サイン表示等を充実し、バス利用のわかりやすさの向上を図ります。
- 外国人観光客の移動を支援する案内・情報提供の充実
 - 駅や観光施設における公共交通の乗り場案内や路線バス車内における行き先やバス停案内の多言語化やピクトグラム表示を促進し、外国人観光客の公共交通での移動を支援します。

③実施主体とスケジュール

取り組み内容	実施主体	スケジュール				
		H30	H31	H32	H33	H34
観光情報を掲載した公共交通マップの作成・提供	柳川市 柳川市観光協会 交通事業者	検討・作成		情報提供		
西鉄柳川駅構内からの公共交通へのスムーズな誘導及び観光スポットにおける公共交通の案内・誘導サインの充実	柳川市 柳川市観光協会 交通事業者	検討	順次実施			
外国人観光客の移動を支援する案内・情報提供の充実	柳川市 柳川市観光協会 交通事業者	検討	順次実施			

【目標4】 観光を支える公共交通の確保・充実

【施策③】 公共交通の観光移動への活用、利用促進

①目的

- 西鉄柳川駅から沖端地区等への公共交通でのアクセスを確保し、西鉄天神大牟田線を利用する観光入込客の観光移動の利便性向上を図ります。

②取り組み方針及び取り組み内容

- 沖新線の観光利用の促進
 - 路線バスの沖新線は通勤・通学移動のほか、観光移動の手段としての役割を担っています。柳川駅から沖端地区等へのアクセスの確保の観点から路線の充実を図り、観光利用を促進します。
- 広域観光へのタクシーの利用促進
 - 柳川市には、沖端地区のほか、バス路線から離れた観光資源もあり、タクシーによる広域観光周遊の情報提供などにより、広域観光へのタクシーの利用促進を図ります。
- 佐賀空港リムジンタクシーの強化
 - 西鉄柳川駅や御花、各庁舎と佐賀空港を結ぶ佐賀空港リムジンタクシーの強化を図り、観光振興の促進、市民の広域移動の支援を図ります。
 - 公共交通及び観光の両面から佐賀空港リムジンタクシーに関する情報を提供し、その周知を図ります。
- レンタルサイクルの導入
 - 市内の観光周遊を支える移動手段としてレンタルサイクルの導入を検討し、鉄道、路線バスと一体となった観光周遊ネットワークづくりを支援します。
- 水上交通の導入
 - 市民会館の建て替えに際し、柳川駅と市民文化会館（仮称）等の公的施設を結ぶ移動手段として、川下りの船等を活用した水上交通の導入を検討します。

③実施主体とスケジュール

取り組み内容	実施主体	スケジュール				
		H30	H31	H32	H33	H34
沖新線の観光利用の促進	柳川市 交通事業者	検討	実施			
広域観光へのタクシーの利用促進	交通事業者	検討	実施			
佐賀空港リムジンタクシーの強化	交通事業者	検討	実施			
レンタルサイクルの導入	交通事業者等	検討		実施		
水上交通の検討	柳川市 事業者等	検討				

【目標5】 公共交通の持続可能性の確保

【施策⑨】 運行効率性向上のための路線の見直し

①目的

- 無料福祉循環バスのコミュニティバスへの統合や西鉄バス市内循環線の運行サービスの見直しにより、利用者の利便性の向上や運行効率化による持続可能性の確保・向上を図ります。

②取り組み方針及び取り組み内容

- 無料福祉循環バスのコミュニティバスへの統合（施策④と一体）
 - コミュニティバスネットワークの再編に合わせて、無料福祉循環バスはコミュニティバスと統合し、全体としての利便性の向上と運行の効率化を図ります。
- 西鉄バス市内循環線の運行サービスの見直し
 - 利用が低迷する市内循環線について、運行効率化に向けて運行サービスの見直しを検討します。
- 交通事業者による利用促進の取り組み
 - 財政負担を行っている路線バスの沖新線及び瀬高柳川線については、利用者や沿線住民のニーズ把握とそれを踏まえたきめ細かなサービス改善を行うとともに、独自の利用促進イベントを実施するなど、交通事業者として利用促進の働きかけを行います。

③実施主体とスケジュール

取り組み内容	実施主体	スケジュール					
		H30	H31	H32	H33	H34	
無料福祉循環バスのコミュニティバスへの統合	柳川市 交通事業者	試行	統合				
西鉄バス市内循環線の運行サービスの見直し	柳川市 交通事業者	検討	運行サービスの見直し				
交通事業者による利用促進の取り組み	交通事業者	利用促進等の取り組み実施					

【目標5】 公共交通の持続可能性の確保

【施策⑩】 コミュニティバスの財政面の改善

①目的

- 地域や市民と協働のもとコミュニティバスの財政面を改善し、コミュニティバスの持続可能性の確保・向上を図ります。

②取り組み方針及び取り組み内容

- コミュニティバスの運賃改訂
 - 今後も持続的にコミュニティバスを運行し、日常生活における移動を支えていくために、現行の運賃（1回利用につき100円）の見直しを検討します。
- バス車両を活用した広告収入の見直し
 - 路線バスやコミュニティバスにおける、車内広告や車内チラシ等による収入増加を図ります。

③実施主体とスケジュール

取り組み内容	実施主体	スケジュール				
		H30	H31	H32	H33	H34
コミュニティバスの運賃改訂	柳川市交通事業者	検討	実施			
バス車両を活用した広告収入の見直し	柳川市交通事業者	実施				

【目標6】 市民の公共交通の周知・利用意識の醸成

【施策⑪】 公共交通のわかりやすい情報提供の充実

①目的

- 柳川市内の公共交通に関する情報をわかりやすく提供することやバス利用への理解を深め、公共交通の利用促進を図ります。

②取り組み方針及び取り組み内容

- 公共交通ガイドブックの作成・情報提供
 - 柳川市内の各公共交通機関の基礎的情報、路線バス・コミュニティバスの路線図やダイヤ、鉄道と路線バスの乗り継ぎダイヤ、利用方法などをまとめて示した公共交通ガイドブックを作成し情報提供を行います。

③実施主体とスケジュール

取り組み内容	実施主体	スケジュール				
		H30	H31	H32	H33	H34
公共交通ガイドブックの作成・情報提供	柳川市交通事業者	検討・作成		情報提供		

【目標6】 市民の公共交通の周知・利用意識の醸成

【施策⑫】 地域公共交通に対する理解を通じた利用の促進

①目的

- モビリティ・マネジメント[※]施策や利用促進イベントの実施により、公共交通に対する理解を高め、公共交通の利用を促進します。

※モビリティ・マネジメント (Mobility Management、略称 MM) とは、市民や組織・地域のモビリティ (移動状況) が「過度に自動車に頼る状態」から、「公共交通や徒歩などを含めた多様な交通手段を適度に (=かしく) 利用する状態」へと少しずつ変えていくための、コミュニケーション施策を中心とした取り組み。

②取り組み方針及び取り組み内容

- モビリティ・マネジメントの実施
 - 公共交通の利用者が減少している中で、アンケート調査等を実施し、個人属性や沿線地域の実情に応じた方法により公共交通の必要性の認識を促し、利用促進につなげます。
 - 「公共交通の利用は考えたことがない」人が多いことから、高齢者の集まり等に出かけていく「出前講座」や学校における児童・生徒を対象にした「乗り方教室」などにより、公共交通の重要さや公共交通は「使ってみれば意外と便利」なことを直接働きかける取り組みを積極的に行っていきます。
- 利用促進イベントの実施
 - 鉄道の日、バスの日などのイベントを活用し、子どもの頃から公共交通に対する親しみや意識を高めていくよう働きかけます。
- コミュニティバスラッピング・ワークショップの実施
 - 市内小学生を対象にバスラッピングデザインを創作するワークショップを実施し、バスに愛着を持ってもらい、公共交通に対する意識を高めていきます。

③実施主体とスケジュール

取り組み内容	実施主体	スケジュール				
		H30	H31	H32	H33	H34
モビリティ・マネジメントの実施	柳川市 交通事業者 等	検討	実施			
利用促進イベントの実施	柳川市 交通事業者 等	継続実施				
コミュニティバスラッピング・ワークショップの実施	柳川市 交通事業者 等	実施				

【目標⑥】 市民の公共交通の周知・利用意識の醸成

【施策⑬】 地域公共交通の運営への地域住民等の参画

①目的

- 地域公共交通の利用促進や改善の検討に地域住民が取り組んでいけるように、地域公共交通の運営に地域住民等が参画するための仕組みや体制づくりを進めます。

②取り組み方針及び取り組み内容

- 地域公共交通の運営状況等の情報提供
 - 広報紙などにより、地域公共交通の利用状況、収支や財政負担額等の運営状況に関する情報提供により、市民の地域公共交通の運営についての関心と理解を高めます。
- コミュニティバス運行見直し基準・運用方法の設定
 - コミュニティバスの利用状況等に応じた適切な運行を確保するため、運行の見直し基準や基準を下回った場合の対応方法を検討し、市民との共通認識を形成します。
- 地域における自主運営組織の検討
 - 各地域の実情に応じた移手段の確保を行うため、地域による自主運営組織づくりを検討します。

③実施主体とスケジュール

取り組み内容	実施主体	スケジュール				
		H30	H31	H32	H33	H34
地域公共交通の運営状況等の情報提供	柳川市交通事業者	実施				
コミュニティバス運行見直し基準・運用方法の設定	柳川市交通事業者 地域（住民）	検討	見直し基準の運用			
地域における自主運営組織の検討	柳川市地域（住民）	検討				

8. 評価・検証と改善の考え方

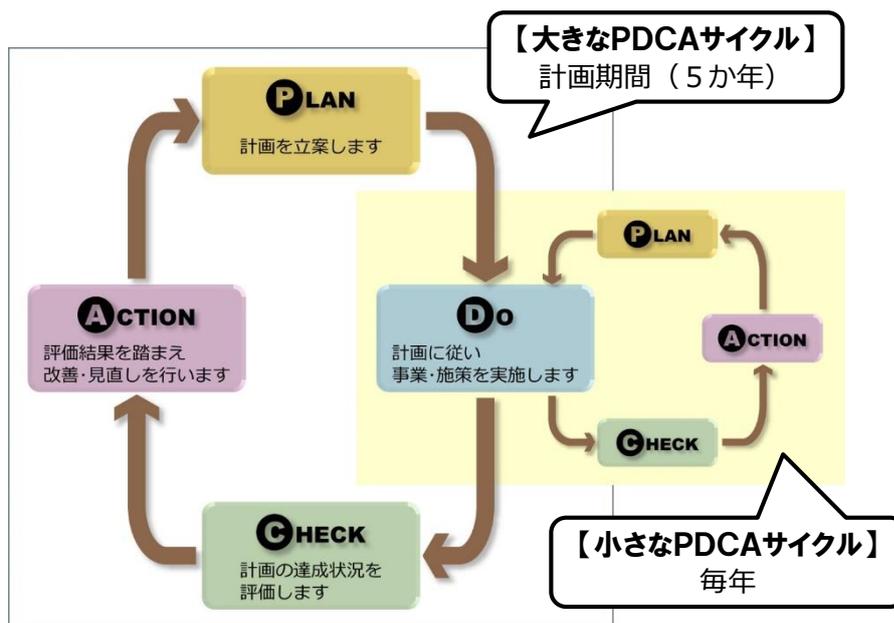
8-1 PDCAサイクルの構築

5か年の計画期間全体を対象とした「大きなPDCAサイクル」と、毎年のモニタリングを中心とした「小さなPDCAサイクル」を組み合わせることで、計画の達成に向けた継続的な改善を推進します。

なお、計画の達成状況の評価（Check）にあたっては、公共交通の利用状況などは社会情勢等に大きく影響されることから、利用者数の増減や数値目標の達成状況の確認に加えて、外的要因も含めた分析を行い、改善策に反映させていきます。

▼PDCAサイクルによる継続的な改善

	対象期間	概要
大きなPDCAサイクル	計画期間（5か年）	○対象期間全体を通じた事業の実施状況や数値目標の達成状況、事業の実施による効果、残された課題などを整理・分析し、次期計画に反映
小さなPDCAサイクル	毎年	○事業の実施状況などを整理するとともに、利用状況などを継続的にモニタリングし、事業内容の修正やスケジュールの見直しなどを実施



▲PDCAサイクルの構築イメージ

8-2 評価の実施方法

5か年の計画期間全体を対象とした「大きなPDCAサイクル」と、毎年のモニタリングを中心とした「小さなPDCAサイクル」を組み合わせることで、計画の達成に向けた継続的な改善を推進します。

数値指標による評価の実施方法は、次のとおりです。

▼評価の実施方法

目標	数値指標	収集するデータ	収集方法	実施主体	実施時期
目標1. 公共交通での市内外の移動の利便性の向上	西鉄天神大牟田線の1日平均利用者数	西鉄天神大牟田線の市内各駅の1日平均利用者数	交通事業者による集計	交通事業者 柳川市	年1回
	路線バスの年間利用者数	路線バス各路線の利用者数	交通事業者による集計	交通事業者 柳川市	年1回
目標2. ニーズに対応した利用しやすい市内公共交通サービスの実現	コミュニティバスの年間利用者数	コミュニティバス各ルートの利用者数	交通事業者による集計	交通事業者 柳川市	年1回
目標3. 高齢者等が公共交通を利用しやすい環境の整備	高齢者の日常生活における移動手段の確保に対する評価	公共交通に対する市民の評価	市民アンケート(市による調査)	柳川市	計画期間終了年度
	高齢者で週1日以上外出している人の割合	公共交通の利用状況	市民アンケート(市による調査)	柳川市	計画期間終了年度
	コミュニティバスの「水の郷」バス停の年間利用者数	コミュニティバス各ルートの「水の郷」バス停利用者数	交通事業者による集計	交通事業者 柳川市	年1回
目標4. 観光を支える公共交通の確保・充実	西鉄電車利用の観光入込客数の観光入込客総数に対する割合	交通手段別観光入込客数(柳川市観光動態調査)	市による集計	柳川市	年1回
目標5. 公共交通の持続可能性の確保	路線バスの維持・確保のための柳川市の財政負担額	路線バス各路線に係る市の財政負担額	交通事業者による算出をもとに市による集計	柳川市	年1回
	コミュニティバスの維持・確保のための柳川市の財政負担額	コミュニティバスに係る市の財政負担額	交通事業者による算出をもとに市による集計	柳川市	年1回
目標6. 市民の公共交通の周知・利用意識の醸成	市内の公共交通に対する市民の満足度	公共交通に対する市民の評価	市民アンケート(市による調査)	柳川市	計画期間終了年度
	調査前1ヶ月間に公共交通を利用した人の割合	公共交通の利用状況	市民アンケート(市による調査)	柳川市	計画期間終了年度
	「乗り方教室」に参加した小学生数	各小学校での「乗り方教室」に参加した小学生数	市による集計	柳川市	年1回